

第6回市島地域市立小学校統合準備委員会 会議録

◇開 会 令和4年 6月24日(金) 午後 7時30分

◇閉 会 令和4年 6月24日(金) 午後 9時00分

◇会 場 ライフピアいちじま研修室

・委員長	川上 泰彦	・副委員長	木寺 章		
・委員	青木 修	余田 義信	坂谷 高義	淵上 利美	
	笹倉 博	山邊 敦	荻野 幸広	藤田 泰生	
	由良 英樹	加藤 宏生	長井 勇人	高見 忠寿	
	松本 和樹	波多野真由奈	坂谷 幸久	若林久美子	
	溝部 康祐	余田 亜美	足立 和宏	吉見 典彦	
	足立 圭造	内田 順子	中澤 正樹	山口 滋唯	
	田野 悟	余田 淳子			

〔事務局〕

・教育長	片山 則昭
・教育部長	藤原 泰志
・教育部次長兼学校教育課長	池内 晃二
・教育部次長兼教育総務課長	足立 勲
・教育部学校教育課副課長	谷川 知美
・教育部学校教育課指導主事	足立 浩基
・健康福祉部健康・子育て担当部長	徳岡 泰
・健康福祉部子育て支援課長	荒木 和美
・健康福祉部子育て支援課 子育て支援係長	芦田 将司
・教育部教育総務課学校統合準備係長	船越 正一
・教育部教育総務課指導主事	小田 敏治
・教育部教育総務課主事	畑中 直之

〔傍聴者〕 7名

次第

(足立教育部次長兼教育総務課長)

1 開会

皆さん、こんばんは。定刻になりましたので、ただいまから第6回市島地域市立小学校統合準備委員会を始めさせていただきます。

開会にあたり確認事項等がございますので、申し上げます。

本日の資料は事前に郵送させていただいております。お忘れの方はございませんでしょうか。

それでは、本日の会議は、議事録等を作成する関係で録音することを御了承いただきたいと思います。また、傍聴の方も本日よりさせていただきますが、傍聴規則に基づいて傍聴いただければと思います。また、報道機関の方もいらっしゃいます。写真等撮影される場合がありますので、御了解いただきますようよろしくお願いいたします。

次第

(足立教育部次長兼教育総務課長)

2 あいさつ

それでは、早速ですが、次第に従いまして、会議を進めさせていただきます。2番のあいさつに進みます。川上委員長から御挨拶をお願いいたします。

(川上委員長)

皆さん、こんばんは。第6回の統合準備委員会となります。勤務先の大学から移動してきたわけですが、前回の会議のときに比べて、大分明るいなと思って、ここまで運転してきたんですが、振り返ってみると、前回は3月3日でした。年度も替わりましたので、仕方のないことではあるんですが、空ましての3か月以上空いての第6回になります。

お手元の次第にありますとおり、恐らく委員の皆さんからすると、それほど間の空いている感じになっていないというか、地域部会の動きも、それぞれおありだったと思いますので、言うほど間が空いている感じでもないだろうと思います。それぞれの地域部会からの御報告、それから、今回、御承認いただくことも幾つか予定されております。活発な御議論をいただいて、今後のいい形に向けて、知恵が出し合える機会になればというふうに思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

ありがとうございます。

それでは、続きまして、本日、全体の会としては、今年度初めての統合準備委員会となりますので、片山教育長から御挨拶を申し上げます。

(片山教育長)

改めまして、皆さん、こんばんは。公私とも御多忙の中、第6回の市島地域市立小学校統合準備委員会に御参集いただきまして、どうもありがとうございます。

先日、花しょうぶまつりで、この地域に来させていただきまして、新型コロナウイルスの影響もあって、なかなか行事ができない中、少しずつ日常が戻りつつあるなというようなことを強く感じさせていただきました。ただ、まだ完全に収束したわけではございませんので、学校のほうでは、暑くなってきたので、マスクの着用と熱中症の加減との兼ね合いが非常に難しく、今日もネットのニュースを見ていると、全国各地で、熱中症で運ばれたというふうなことも出ておりました。両方に対応していかなくはなりませんので、これから大変だなというふうには思っております。ただ、修学旅行に出かけたり、それから、自然学校に行ったり、プールも始まったりということで、少しずつ日常を取り戻しつつあると思います。

そんな中で、当地域の小学校の統合準備につきまして、部会ごとに前向きな、また、建設的な、積極的な御意見をいただき、少しずつ前に進んでいることを認識しております。本日も細かいところも含めまして、いろいろと協議の内容があると思いますけど、子供たちにとっていい統合ができる、また、いい学校ができるように御協議いただいたらと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。会議の開催にあたりましての御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございます。

次第

3 委員自己紹介

(足立教育部次長兼教育総務課長)

それでは、続きまして、次第の3番に移らせていただきます。先ほども申し上げましたが、今年度初めての全体会ということでございますので、委員の皆様、それぞれから自己紹介をいただきたいと思います。最初に正副委員長御紹介を経まして、その次は机の並び順になりますけど、順に自己紹介をいただければというふうに思います。

《各委員・事務局職員自己紹介》

次第

4 地域部会からの報告及び協議事項

1 (1) 竹田・前山地域部会

【承認事項】

① 竹田小学校と前山小学校の統合の場所及び時期について

(足立教育部次長兼教育総務課長)

それでは、続きまして、4番の地域部会からの報告及び協議事項につきまして、ここからは委員長さんの進行でよろしくお願いいたします。

(川上委員長)

それでは、改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の次第の4になります。地域部会からのそれぞれ御報告及び協議事項ということで、事務局、確認ですけど、それぞれの地域部会の報告と承認、協議というのをそれぞれ行うという形でいいですか。報告をまず最初に2部会やっていただくという流れですか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

すみません、では、両部会の報告を先にさせていただいて、その後、協議事項という流れでお願いします。

(川上委員長)

分かりました。ありがとうございます。

では、竹田・前山の地域部会での御検討内容についての報告をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(竹田・前山地域部会長)

座って失礼します。竹田・前山地域部会から、地域部会の結果について説明いたします。2ページを御覧ください。

前回の地域部会は、5月30日曜日にライフピアいちじまで開催いたしました。内容1の「統合の時期及び場所について」を御覧ください。

校舎見学で寄せられた感想とありますが、過去の地域部会の中で竹田小学校と前山小学校の校舎見学会を開催するべきであるという意見がありましたので、5月14日土曜日に両校の校舎見学会を実施いたしました。そこで寄せられた意見について記載しています。これらの意見等を勘案し、統合の場所と時期について議論をいたしました。

統合の時期について、地域部会の中では、見学会の感想等を聞くと、竹田小学校で統合するというイメージの人が多いのではないかという意見がありました。前山小学校で4人のクラスになる年代の人がいるので懸念しているという意見も出ました。そういう人は早く統合してほしいということでした。

また、決め手になるようなものがないので、なかなか踏ん切りがつかないので、数字的なものを出して目安として提示していきたいという意見が出ましたし、住民投票のような形で決めるのも可能なのかという意見もありました。

そのような中、最終的には統合の場所について、部会内で投票を行うということが決定し、その結果、黄色で着色しているとおり、竹田小学校が14票、前山小学校が2票で統合の場所が竹田小学校に決定されました。また、統合の時期については、記載されているとおり、施設に関する質問等も寄せられましたが、最終的には多数決ということで、時期としては令和6年度に統合するということが決定いたしました。

また、令和4年に入ってから交代された前年度の委員に引き続き参加いただいておりますが、統合の場所と時期について部会での結論を出すことができましたので、第5回の地域部会をもって参加を終了することが決定いたしました。

以上が、竹田・前山地域部会からの報告です。早足で失礼しました。

(川上委員長)

ありがとうございました。今の御報告に関しまして、質問、御意見等々ご

ございましたら、挙手いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうかね。

(2) 吉見・鴨庄・三輪地域部会

【承認事項】

- ① 鴨庄地域におけるスクールバスの運行について
- ② 統合後のアフタースクールの在り方について

【報告事項】

- ③ 三輪小学校の統合の時期について

(川上委員長)

では、先ほどのここでの打合せに従いまして、続いて、吉見・鴨庄・三輪の地域部会から御検討の結果について、経過について御報告をいただければというふうに思います。よろしくお願いします。

(吉見・鴨庄・三輪地域部会長)

失礼します。吉見・鴨庄・三輪地域部会の結果につきまして、説明をいたします。5ページを開いてください。

協議事項の欄でございます。①で、「統合後のスクールバスの運行について」です。鴨庄地区のスクールバスの運行に関しては、内容のほとんどが鴨庄地域に関することのため、鴨庄地域で個別の事前協議を実施することが地域部会で決定されていまして、その開催された内容については、7ページに記載しております。

1の「現地視察の結果について」とありますが、鴨庄地域では、4月9日に実際にバスを走らせて現地視察を実施し、PTAや振興会から参加いただいた方に意見を伺いました。その結果について、意見として、下にまとめております。それらを考慮し、方針として記載されているとおり、現地視察時のルート①を基本に運行経路を検討するということが鴨庄の個別協議で決定されました。具体的なルートや乗車時間については、2の「運行経路について」に記載しているとおりでございます。地図については、8ページから9ページに記載しております。これらの鴨庄での個別協議の結果を受け、5ページの黄色い部分にも記載しておりますとおり、地域部会内でも賛成全員で可決されました。

次に、②の「アフタースクールの在り方について」です。アフタースクールの在り方については、吉見アフターと鴨庄アフターの2か所にするのか、吉見アフターの1か所にするのかについて、主に協議がされました。協議の中では、1か所にした際の施設の面積的な余裕や職員の配置を心配する声や、祖父母が送迎しているので、自宅から近い鴨庄アフターのほうが負担が少ないという意見、学校生活の様子をそのまま引き継げる1か所のほうが良いという意見等が挙げられました。

最終的には、10ページから11ページに記載しております担当課が提案されました「吉見小・鴨庄小の統合後におけるアフタースクールに係る方針」にあるとおり、吉見アフタースクール1か所で実施することが賛成多数で可決されました。

次に、③の「三輪小学校の統合時期について」です。資料は12と13ページでございます。

吉見小学校と鴨庄小学校の統合が決定している中、三輪小学校がいつの時点で加わるかについて資料にある人数などを参考に現在も検討を予定しております。

13ページを御覧ください。前回からの動きとしては、年度が替わり、改めて各年代の人数を算出したところ、移動等により人数の増加があり、資料中ほど右側に、学級数の見込みを記載していますが、令和11年まで8学級が続くようになっております。

下の三輪小学校統合時期の検討に係るこれまでの経緯にも記載しておりますが、昨年度までは令和8年度になれば7学級以下となる。吉見小学校の大規模な改修はせずに、三輪小学校の統合が可能としていましたが、人数が増えたため、大規模な改修を行わない場合は、令和12年以降でないと難しいという状況でございます。

三輪小学校の統合時期については、今後も協議を継続していきますが、本日までの報告ということで、現状について説明させていただきます。

以上で、吉見・鴨庄・三輪小の地域部会からの説明を終わります。

(川上委員長)

ありがとうございました。ただいま御説明いただきました吉見・鴨庄・三輪の地域部会につきまして、地域部会での御検討につきまして、御質問、御意見等々ございましたら、挙手をいただければと思います。いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

着座にて失礼いたします。先日の地域部会を経て、鴨庄小学校の全児童のアフタースクールでの在り方を踏まえて、いろいろと意見を聴取いたしました。その中で、アフタースクールの在り方について御意見がございましたので、本日、ここでもって口頭追加をしたいのですが、よろしいでしょうか。

(川上委員長)

お願いします。

(委員)

ありがとうございます。それでは、四つほど意見がございましたので、提案させていただきます。一つ目が、統合する4月には施設の設備を完了していただきたい。二つ目に、統合に係るこども園の負担を考慮して、指導員の増員をしていただきたい。三つ目が、利用者及び保護者の不安が軽減されるよう、説明を十分にしていきたい。四つ目が、学校周辺の道路が狭いこと、交通安全面に対しての不安を多く感じているというところが御意見としてありましたので、追加させていただきます。ありがとうございました。

(川上委員長)

ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。今、御報告いただいた鴨庄の保護者さんたちの御意見に関連してでも構いませんので、何か御意見ございましたらと思いますけど、いかがでしょうか。

今も報告いただいた、御紹介いただいた御意見というのは、承認事項で出てくる方針そのものに対して何かというものというよりは、これを実施する上で配慮してほしい点というような意見の集約という捉えでよろしいですかね。ありがとうございます。

それでは、御意見のほう特段、挙手ございませんようでしたら、次第にありますとおり、竹田小学校・前山小学校の統合の場所及び時期について、それから、鴨庄地域におけるスクールバスの運行と吉見・鴨庄統合後のアフタースクールの在り方についてという、この3点については、委員の皆さんに挙手をいただいて、承認いただくということになります。

したがって、今からそれぞれにつきまして、御賛同いただける方の挙手をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、まず1点目です。竹田小学校と前山小学校の統合の場所及び時期について、今回、地域部会の報告がありましたとおり、統合の場所を竹田小学校とすること、それから、統合の時期は令和6年度とすることという方針につきまして、御賛同いただける委員の皆様、挙手をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

《賛成多数で承認》

(川上委員長)

ありがとうございます。御承認をいただきました。

続きまして、吉見・鴨庄・三輪地域部会で御提案をいただいております承認事項の1点目、鴨庄地域におけるスクールバスの運行について、5ページの記録にあるとおりの事務局提案のスクールバスの運行案、具体的には、お手元の資料の8ページ、それから9ページにかかるものですね。こちらのスクールバスの運行につきまして、原案御承認いただける方は挙手をいただければと思います。よろしくお願いします。

《賛成多数で承認》

(川上委員長)

御承認をいただきました。ありがとうございます。

それから、承認事項の2点目、統合後のアフタースクールの在り方についてです。資料6ページ目の決定事項のところですね。担当課提案の小学校統合後のアフタースクール案、吉見でのアフタースクールの運営とするということにつきまして、御承認をいただける方、挙手をいただければと思います。よろしくお願いします。

《賛成多数で承認》

(川上委員長)

ありがとうございます。御承認をいただきました。

今の御承認いただいた件につきましては、先ほど、保護者代表の委員さんから御意見、4点ほど出していただきました。これ実際、実現していくに当たっては、御報告いただいた4点、十分に御留意いただいて、進めていただくということ、事務局に改めてお願いをいたします。

ということで、地域部会からの御報告、協議事項につきまして、承認が必要となるものが3点ございました。こちらにつきまして、それぞれ御承認をいただきました。ありがとうございました。

次第

5 「5校→1校」統合について【協議事項】

(川上委員長)

では、次第の5番目として、「5校→1校」統合についてに進みます。こちら、今から事務局から追加で資料の配付と、それについての御説明をいただくという流れと聞いています。少し資料の配付をお待ちください。

(資料配付)

(川上委員長)

資料はお手元にありますでしょうか。一応、表面がこういう青い横長のものになっている資料です。手元に資料ありませんという方、いらっしゃったら挙手いただければと思います。大丈夫でしょうかね。

ではまず、資料についての御説明を事務局からいただければと思います。よろしくお願いします。

(畑中教育総務課主事)

失礼します。教育総務課の畑中です。資料について御説明いたします。

では、「5校→1校」統合に関するこれまでの協議結果等について、確認も兼ねまして、御説明をいたします。まず、1ページを御覧ください。

なお、資料につきましては、前回の統合準備委員会でも使用したのになりますので、昨年度から引き続きの方は繰り返しになりますが、御了承ください。

まず、市島地域では、平成24年から29年度にかけて、市島地域のこれからの教育を考える会を組織し、市島地域の教育環境の整備について議論が行われ、書いてあります具体的方策に対する見解と提言が提出されまし

た。その中では、統合の際には、同一敷地内での施設一体型小中一貫教育を目指すことが望まれる、同一敷地内に小中一貫教育校を設置し、小学校から中学校の9年間の学びと育ちの連続性を保障した特色ある教育課程、特色ある学校行事、PTAの活性化等、より活力にあふれた学校運営が展開できる環境を作ること、市島地域としての地域の文化、人のつながり、豊かな自然を生かしたまちの魅力の一つとして、地域外からの好影響が期待できるといった内容が書かれており、小中一貫校を意識した内容でありました。

その後、フォーラムや保護者説明会を開催した際、再度議論する場を設け、意見を聞く必要があるのではないかという声があったため、令和2年度に統合検討委員会を開催いたしました。統合検討委員会では、統合の是非について投票が行われ、統合を前提に協議を進めていくことが決定いたしました。

ただし、この投票は、例えば、「1校に統合する」や「どこの学校とどこの学校が統合する」といった統合の形態は問わずに行われました。ですので、5校を存続すること以外の形となることが決定し、その後、具体的な内容について協議をしていくことが決定されました。

そして、具体的な統合の形態を協議するため、昨年度から統合準備委員会を開催しています。夏には校区ごとに地域ヒアリングを実施し、各委員の御意見を伺いました。その中では、できるだけ早く統合するべきという意見が多く寄せられ、1校にする統合では、場所の検討などに時間がかかり、決定してから校舎建築等で時間を要するため、早く統合したいという希望を実現することができないため、現在の認定こども園の範囲を対象とした二つの部会を設置し、個別の協議をすることとなっております。

また、それらの部会での協議に加え、5校を1校にする統合の協議も並行して進めていくことも決定されました。

次に、2ページを御覧ください。

こちらでも前回の統合準備委員会に説明をいたしましたが、1校統合について考えられる検討項目を挙げております。

資料上の形態については、先ほど説明いたしました、これからの教育を考える会の提言等を考慮いたしますと、同一敷地内の小中一貫校も案として考えられます。資料左下の場所については、新校舎を建築し、新たな場所を設定する方法と、既存校舎を活用する方法が考えられます。新たな場所を設定する場合は、建設用地の確保が必要になる点や、建設費が高額になる点が課題として考えられます。既存校舎を活用する場合は、教室数が不足するため、増築や統合時期を調整する必要が生じます。

次に、資料右下の時期につきましては、現在、協議をいただいている段階的統合の進み具合についても考慮することが必要と考えております。また、時期の決め方につきましては、令和何年に統合するというような明確な時期を設定する方法もありますが、段階的統合も進めていく中で、それが難しいことも予想されますので、例として記載していますように、段階的統合後、さらに複式学級が発生した場合に1校統合を検討するといったような、1校統合の検討を開始する条件のようなものを設定する形もあり得ると考えております。

次に、3ページを御覧ください。

各地域部会における今後の動向の予定について記載しております。

先ほど承認いただきましたとおり、竹田小学校と前山小学校は、令和6年4月に統合、吉見小学校と鴨庄小学校は、既に決定しているとおり、令和5年4月に統合することが決まっております。なお、三輪小学校につきましては、今後、統合の時期を検討していただく予定になっております。

次に、次のページです。1校統合を検討する上で、市が定めている学校統合に関係する方針について説明をいたします。

4ページを御覧ください。

市が定めている第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針について御説明します。

1の「丹波市立学校適正規模・適正配置とは」について、丹波市では人口減少が進む中、子供たちのより良い教育環境を整備するために、市内小中学校の標準学級数や配置の在り方について定めた丹波市立学校適正規模・適正配置方針を策定しています。令和2年度には、丹波市立学校適正規模・適正配置検討委員会を設置し、令和12年度までの10年間の方針を定めました。

また、適正規模・適正配置ともに、国でも方針が定められておりますが、地域の実情、その他特別の事情がある場合は、独自の基準を設けることも可能とされています。当委員会は小学校の統合協議ですので、小学校の事項に着目して、以下説明させていただきます。

2の適正規模についてです。①「小学校は1学年1学級以上が維持できる規模とする」と定めています。つまり、複式学級が生じない規模を適正規模と丹波市はしております。なお、国の基準では、12学級から18学級、具体的には2クラスから3クラス程度が適正規模とされています。

次に、3の適正配置について。「通学距離については、基準を設けない」としております。これは、統合によりスクールバスを運行する場合もあるため、このような基準となっております。また、国の基準では、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内とされています。

通学時間については、「通学方法にかかわらず、小中学校とも1時間以内」とされています。国の基準も同様です。

次に、(2)の学校の構成については、地域内(旧町域)に小中学校を1校以上配置するとしております。

次に、(3)の学校統合については、小学校は複式学級規模となる場合、また、複式学級規模となることが見込まれる場合に地域合意の下、その学校のある地域を旧町域で統合協議を行う。ただし、完全複式(3学級)規模となる場合は、地域合意のいかんを問わず、速やかに統合協議に入るとしております。

このような方針を定めておりますので、今後の統合協議の参考にもしていただけたらと思います。資料の説明は以上になります。

この1校統合の協議につきましては、段階的統合も並行して行っている中で協議になりますが、前回の統合準備委員会以降に選出母体の中から出た意見や、委員の皆様のそれぞれのお考え、1校統合に関する質問当があれば、この後いただけたらと思います。以上です。

(川上委員長)

御説明ありがとうございました。先ほどの次第の4のところで、竹田・前山地域部会のほうから、非常に大事なというか、重たいというか、御決定をいただいて、それを御承認いただきました。それを受けて、この後どうしていきましようかというお話で、「5校→1校」統合についてという協議事項が立ち上がっている次第です。

今、事務局から御説明いただいた内容について、それから、資料に目を通して、お気づきの点とか御確認されたい点につきまして、まず、質問があればしていただき、それから、御意見いただければと思うんですが、いかがでしょうか。

(委員)

私は統合検討委員会から参加させていただきまして、経過を聞かせてもらう中で、確認なんです、5校から1校、最終形態は1校というので決まっているんでしょうか。

(川上委員長)

これについては、1ページ目にありますとおり、検討委員会での決定を見たことというのは、最後に1校にするかどうかというよりは、5校のままに

はしないということの合意だけでした。ですので、それが4校で落ち着くのか3校で落ち着くのか、2校で落ち着くのか、1校までするのかということについては、ひとまず別に置いておいてという形で議論を進めてきたものと認識しておりますが、事務局、そのような認識でいいでしょうか。

(委員)

分かりました。

(川上委員長)

そのほかいかがでしょうか。お願いします。

(委員)

すみません、2点質問があります。1点目が、この頂いた資料の3ページ目の書いてあるんですけど、三輪小学校について、吉見小・鴨庄小との統合時期の検討と書いてあるんですけど、これは、いずれ三輪小学校を吉見小学校に統合されるという流れなんですか。その流れはもう決まっているのかというのと、その目途が決まっているのであれば、目途も教えてほしいです。あと、2点目が、4ページに書いてある、これは私がいまいち理解していないんですけど、小学校は1学年1学級以上が維持できる規模とするという定義が書いてありますが、この基準がよく分からなくて、複式学級にならないという意味なのか、それとも、何人ぐらいで1学級と考えているということなのかというこの2点、御質問させていただきたいです。

(川上委員長)

ありがとうございます。2点目については、事務局でいいですか、両方とも説明をお願いします。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

失礼します。1点目の三輪小学校の統合のことですが、先ほども地域部会長さんのほうからも報告がありましたように、統合に向けて時期を継続して協議をしているということなので、先ほど言われた時期が明確になっているかということについては、今はまだ明確ではないので、引き続き協議をしていただいているというところで御理解願いたいと思います。

それから、もう1点の適正規模のところですが、1学年1学級以上が維持できる規模というのは、先ほども言われましたように、複式学級が生じないということです。ですので、隣り合う学年が14人以下になると、複式学級になるので、それ以上の規模を維持するというところでございます。

また、基準としては、1年生を含む場合は8人、それ以外は14人です。

(川上委員長)

そのほかいかがでしょうか。お願いします。

(委員)

これは今の話でいうと、三輪小学校はいずれ吉見小学校に統合されるというのは確定しているということでもいいんですか。それもまだ確定はしていないということでもいいですか。

(川上委員長)

事務局、この辺はどうでしょうか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

これは今、部会のほうでも議論がされていますので、事務局がというよりは、その方向で協議をされております。ですので、時期まではまだ明確でないですけども、その時期を探って、現在、協議をしていただいておりますということです。

ですので、今言われたように、統合が確定しているとか、そういうことではなく、その可能性を含めて、現在、検討してもらっているということです。

(川上委員長)

資料の今追加で頂いたほうではなく、当初配付されている資料の13ページに、各小学校区での年齢別の子供数が出ていて、それを見ていく中で、そ

の基準に照らして、今回御検討いただく部分というのは、基準に照らしてぎりぎりまでという選択をとっていくのか、もっと違う選択をとっていくのかという話が恐らく出てくるだろうというように考えております。

そのほかいかがでしょうか。

ということで、現状、御検討いただく選択肢が大きく言うとは三つあるイメージになるのかなと思います。先ほど御承認をいただいて、この後、教育委員会、会議後に付託をしてということになるわけですが、この段階をもってしばらくこのままという、3校という考え方と、地域部会の構成に合わせた2校で一定、落ち着いた形と見ていくという考え方と、1校統合まで考えていきたいと思いますという考え方と、三つの選択肢がある状態というふうに御理解をいただければというふうに思います。

それに向けての、この形を当面どうしていくかということについての意見交換をいただきたいというのが、この場での協議事項ということになるかなと思います。今、御質問をメインで挙手いただいておりますが、お考え等々ございましたら、そちらもぜひお聞かせいただければというふうに思います。いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

竹田・前山地域部会にずっと参加をさせていただいているんですが、学校がなくなるとか、そういう観点ではなくて、やはり子供の教育環境という視点で、これまで統合というのを考えられてきたと私は認識しています。したがって、適正規模云々という話で統合というのを決めるのであれば、1校統合の話は凍結に近い、かなり先のお話になると思います。そうではなくて、市島地域の子供たちの教育環境をというような、以前からの話の中で、1校統合というのが出てきていたと思いますので、目指すところは1校だろうと、私の中ではそういうふうに理解はしていました。

ただ、若干矛盾に感じるのが、三輪小学校さんを考えられたときに、1校統合が前提でなくなれば、いわゆる施設を改修するのにお金をかけてもよいという、要するに、施設改修にお金をかけないのは、いずれ1校に統合するからだという、そういう前提があったと思うんです。したがって、今回、その適正規模というか、複式になるからやむなしに統合していくということであるならば、そこは気にせずに、施設改修をしてでも統合はできるようになってくると思うんですが、いかがでしょうか。

(川上委員長)

ありがとうございます。今の件、事務局、何か御説明いただけることはありますか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

先ほど言われたところも、そういう考え方としては当然だろうかと思います。ただ、今、現時点で美和地区でも吉見小学校・鴨庄小学校との統合に向けての協議をされている中で、こちらから今、こうすべきというのは言えない中で、先般も美和地区でお集まりいただいて、そういった統合の時期等について協議も今継続されていると思うんですが、その結論を待つ形になると現在思っております。

(川上委員長)

ありがとうございます。すみません、事前に言うべきでした。施設改修の件ですね、施設改修の方針について、先ほど若干御指摘があったと思うんですが、これは、そういう前提として動いてしまって大丈夫なものなのか、要するに、いずれは1校統合というのが前提になっていると、今進めているもろもろの統合というのが過渡的なものになっていくので、結果的に途中での施設改修というのはなかなか難しい、いずれは1校統合するものに、どれぐらい施設改修のお金をかけられるかというような話になるという御説明をいただいていたやに思うんですが、この辺の理解は、議論いただく中で多

分一つの前提みたいなところになると思うんですが、この辺りはいかがですか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

今、御意見として、それはあると思うんです。先ほどの13ページの表の中で御確認もいただけたと思うんですが、これは、仮の話になるんですが、今言われた3校が入るために施設改修をするとなった場合に、このまま行けば令和12年には現状の施設でも対応が可能というのが見えている中で校舎の改修をするのが本当にいいのかということも、今度は考えていかなければいけない。改修をしても、改修しなくても入れる年限がどんどん近づいてくるというような実態もある中でありますので、今日、その明言はできませんが、そういったことも視野に入れて検討はしていないといけないのかなと思います。

(川上委員長)

すみません、委員長と事務局の会話になってしまっていて、申し訳ないんですが、そうすると、この後御議論いただく中で、施設の話というのは、一旦置いて話をしても大丈夫だという理解でいいでしょうか。このような形で統合するので、施設の改修込みでやってほしい。例えば、施設改修が必要なタイムスパンを見て、三輪の統合の話をするとしたときに、その場合は施設改修もセットでお願いしますねという議論というのが成立するという、そういう理解で御意見を募るのでよろしいですかということですね。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

今後の議論の中にはなると思うんですが、統合準備委員会として、今、委員長が言われたような協議を重ねてきていただいて、最終的にさっき言われた教育委員会、あるいは市のほうで、どういう結論を出していくかというところ、ちょっとまだ統合準備委員会と違う結論が出た場合、またお返しすると、そういうこともあり得るという中での協議になっています。できるだけそういうことにならないように、この協議の過程というのは、市長部局とも連携をとりながら、整備も進めていきたいということは思っておりますが、そういかない場合もあるという可能性はあると思います。

(川上委員長)

要望として乗せる分にはいいという理解で聞きましたが、それでよろしいですね。ですので、施設の問題については、要は、教育環境が第一ですよというところを大事にしながら進めていくわけですが、施設の都合がこうなのでという枠づけで議論を進めるわけではなくて、御意見をいただいているということですね。

という確認を少し事前にさせていただいたところで、改めて、全体の準備委員会ですね、市島地域の小学校教育の今後の姿について考えましょうというのが全体の会になろうかと思っておりますので、そうした観点から、今、先ほど改めて整理させていただいたところですが、選択肢が三つある状態について、御意見、それから、今のやりとりの中で確認したい点等々ありましたら、改めて質問という形でも結構ですし、何か御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

ありがとうございます。改修がどうかとかいう話もあったんですけど、多分、三輪小学校が吉見小学校と鴨庄小学校と一緒にならなかった理由に、ハード面があるはずなんですね。それが多分、数年後には改善されるから、そこで合流してもいいのではないかという話もあったと思います。でも資料を見ている限り、別に、さっきの複式学級の基準で見ると、三輪小学校も別に複式にはならないという話もありますよね。ただ、それは、1校に統合することが大前提だったら、また三輪小学校さんも、じゃあ、このタイミングで入ろうとか、入らなくてもいいねという話にはなると思うんですね。

私は、結論からいうと、1校に統合しない理由も特にないなと思っているんです、私自身はですよ。統合することによるマイナスというのがあまり見えなくて、これを見ている限り、1学年62人というのが、5歳児から下ですね。80人を超えて3クラスになるのはいいことだと思うんですけど、あまり考えにくいなと思うんです。ただ、5校を1校にするときには、校舎を多分、建てないといけないので、それはある程度前から決めておかないと、今回みたいにぎりぎりになって、統合すればいいということに多分なっただと思うんです。でも、平成24年の早い段階で統合をしていたら、たぶんもう統合はできていると思うので、それをこの後、同じことをしていくのではないかと考えています。

(川上委員長)

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。御意見を今は伺う場と理解しております。何か結論を急ぐ場というよりは、まずは様々な御意見を出していただくのが大事な場かなというふうに。お願いします。

(委員)

取りあえずは3校で市島町の統合は終わればいいのかと思います。他の地域を見ますと、上久下とか船城とか、それらの地域も人数が減ってくるので、そちらに注目して、とりあえず市島は3校でいけばいいと思います。それから、学校の名前とか、それにつきて、ちょっと考えていたんですが、鴨庄小学校は吉見小学校でよいと言われたんですか。鴨庄小学校の人が、吉見小学校へ行く場合は、吉見小学校でよいと言われたんですか。

(委員)

今の時点ではそれでよい。ただし、鴨庄地域でもいろいろな意見がありまして、全てがオーケーということではないんです。やはりそういうわだかまりというのがあり、その意見は聞いております。しかし、今の段階としては、取りあえず吉見小学校と一緒にあって、子供のために進めていくということです。

今後、今話題になっている三輪小学校のことがあると思います。だから、その辺りの議論が入ってくると、やはりその時点では、何かの形で校名等の提案が出てくると思います。今言われますように、三輪がいつ統合するのかやはり今後、大きな議論になるんじゃないかと思っています。

(委員)

分かりました。それこそ、竹田小学校と三輪小学校だったら、規模的にそんなに変わらないので、何で三輪小学校だけ残るのかなという気持ちもあるんです。そこで、やはり学校名で、また吉見小学校になるのなら、もう最初から市島第一小学校、市島第二小学校とか、第三小学校とか、そういう名前にしてしまっただけで、統合したときにはもう第一がなくなる、そういうように考えています。校歌とか校章もそういうふうにしていったらいいと私は感じています。

(川上委員長)

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。繰り返しになりますが、御意見伺う場と考えております。よろしくお願いします。

(委員)

失礼します。意見としてなんですが、こども園で保護者会の会長をしていたこともありまして、今、鴨庄と吉見のこども園の子どもは、そのまま来年度から吉見小学校に行く。美和地域の子どもだけ三輪小学校に分かれてしまうというのが、今、こども園単位で統合をという気持ちが少し僕の中にあっただけで、まず3校案で考えていくより、子どものためを思ったら、そのままこども園単位で小学校に上げられる環境を、せめて早く作ってあげられないのかなというのが正直な思いで、吉見小学校にしても三輪小学校にしても、大規模まではいかなくても、教室を増やす工事とかはできないのか、建物の関

係でできない場合もあるかもしれないんですけど、そういったところも、また事務局のほうから、調べていただけたらなとは思っています。

(川上委員長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。一個一個については是非を問うというよりは、皆さんで少しまとまってお考えをお話しいただける場面があれば、どんどん出していただくのが大事なところかなというふうに思っています。いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

三輪小PTAのほうも三輪の地域の方、自治振興会の会長含め、保育園の保護者何名かと、あと、PTAの保護者何名かと協議の段階で、統合に向けて、最短で令和12年度には統合せなあかんということは、まだ決定ではないんですけども、この13ページの表を見ているとそういう感じがあるので、それに向けて、地域の方々と保護者の方々と、統合に向けて準備段階、いつ統合するのかというところを決めているところです。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。今回、御所属であったりとか、何かを代表しての御意見である必要は全くございません。こうやって新しく出てきた話題ですので、それぞれ皆さん、特に昨年度以前から関わっていらっしゃる方もそうですし、その方は、これまでの蓄積も踏まえつつ、今年度から関わられた方も、新しい課題意識の下で、個人としての考えを聞かせていただければというふうに、今は考えておりますので、どうぞ御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

失礼いたします。私は、平成24年から市島地域のこれからの教育を考える会をされたんですけど、約10年たって、市島町での教育環境はどれが良い、どうなれば良いのか、はっきりしたものが出たのか、何かそういう案が出ているのか。今のところは丹波市の適正規模・適正配置方針が整えば、良い教育環境なのか。その辺りがちょっと見えないんです。私たちが話を聞いていただけて、そこを考えることの、出てきたものを見せてほしいという意見です。

(川上委員長)

ありがとうございます。その辺り、事務局、どうですか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

失礼します。先ほど言われた平成24年からの市島地域のこれからの教育を考える会からの提言というのは、ここに書いてあるとおり、市島地域として、同一敷地内で小中一貫校による全ての統合が望ましいというのが提言でございます。

あと、そのほかにも提言事項というのはありました。コミュニティ・スクールのことであったりしますが、統合については、そういったことで結論は出ました。ただし、このことについて、その後に行ったフォーラムや保護者説明会等、特にフォーラムをする中では、やはりまだ5校を1校にすることについて、賛否両論があるということがあって、いま一度、統合について考える機会を設けていこうということで、検討委員会を持たれて、形はどうあれ、統合を前提に協議をしていきたいと思います。今、この統合準備委員会を開催しているという流れになっています。

もう一方の適正規模・適正配置の方針は、これは市全体の中で、令和2年度に定めた適正規模で、今後10年間は、先ほどから言っている複式学級にならないというのを小学校の適正規模としております。ですので、今、市島地域で検討していただいているこの統合というのは、平成24年から続いてきた流れの中で、今も検討していただいておりますので、必ずしも市の適正規模・適正配置方針に基づいてということではなく、これも含めて広く協議

をいただければというふうに思っております。

(川上委員長)

よろしいでしょうか。望ましい教育環境というのが、何か学校の組合せで一義的に決まる、直ちにこういうものだ決まるわけではないんですね。何かをやりやすい環境とかというような、やりやすい、やりにくいといった問題で、少し捉えていただいたほうがいいのかなと思っています。これは、事務局と特に打合せをしているわけではなくて、私の個人的な見解みたいなどころになるんですが、例えば、1校統合しますというときに、施設一体型小中一貫をする。一方、施設が一体でないと小中一貫できないかという、そういうことではないんですが、これは施設が一緒のほうが小中一貫教育はしやすくなるだろうということですね。

認定こども園単位での2校という形で落ち着けていこうという案があるとしたら、幼小の連携というのは、恐らくとりやすくなるだろうと思います。もちろん、そうではないときでも幼小の連携はとるべきだし、とる工夫もできます。ただ、その組合せが、認定こども園と小学校の組合せがストレートにつながっているほうがやりやすいだろうということですね。できないことは意味してないんですけど、やりやすいだろうということです。

地域との関係性などを大事にしようと思ったときには、なるべく規模は関係なく、小さい学校も残して、身近なところにあったほうがいいかもしれないという考え方ですが、これも、統合後に地域連携ができないかという、そういうわけではなくて、恐らくそのほうがしやすいだろうというので、やりやすい、やりにくいに少し濃淡の差は出ます。ただ、何かをとると、直ちにこれはできないとか、これをしたいと思ったら、この形しかないというものでもないということもあるので、ここで様々な御意見いただく趣旨だと思います。技術的にこれがいいというのが決まれば、恐らくこういうことをせずに答えが出てしまうわけですね。地域の中に学校があることの意義であったりとか、学校について様々な意味が乗っかってきますので、そういう意味では、いろんな観点で学校をどういう形にするかという一つの結論に乗っかってきてしまう。ですので、どの観点も大事にしようというところで今回、こういう場を作って、御意見いただきたいという形にしておりますので、技術的にあまり出るものではなくて、皆さんがどの観点を大事にしてらっしゃるかというのを、この先の話でしていく必要があろうというところで今、お話を伺っているところでした。すみません、あまり煮え切らない話になって。

(委員)

ありがとうございます。要するに、ここで協議をする前のことを私たちは半分以上知らないというのがありますので、協議を求めるのであれば、やはり知る機会というのをとっていただければ、より実りのある協議ができるのかなと思いますので、よろしくお願いします。

(川上委員長)

ありがとうございます。そのほか、今の時点で御意見ありましたら、ぜひお聞かせいただければと思うんですが、いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

何回もすみません。ちょっと聞き漏らしているかもしれないんですけど、この1ページのフォーラム、保護者説明会というのは、いつ、どういう規模でされて、多分、ここで反対があったから、24ページから29ページの提言が一旦頓挫したというふうに今、聞こえたんですけど、そこをちょっと具体的に説明していただけますか。

(川上委員長)

事務局、お願いします。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

このフォーラムや保護者説明会というのは、令和元年度で、フォーラムは令和元年の10月だったと思います。開催させていただいた中で、賛否が多かったというのは、このフォーラムで出ております。それを受けて、今度、認定こども園の保護者、いちじまこども園、あいいくの丘の保護者の方との意見交換、そして、小学校は、一括でこの会場で行ったと思うんですけども、全ての5校の小学校の保護者を対象にした意見交換会をする中で、その場では、保護者説明会では、やはり統合のことについて考えていく場は必要であるという御意見があって、令和2年度に統合検討委員会ができてきたというような経過になっております。以上です。

(委員)

ということは、多分、H24からH29の提言がずっと載っているということは、これを目指し続けるという10年間をしているという認識でいるんですけど、多分、時代が変わって、当時は多分そんなに、今すぐに統合をしなくてもいいのではないかという、空気感だったと思うんですけど、5年が経って、大分変わってきたので、今回みたいなこういう状況になっていると思うんですね。

でも、さっき言ったように、統合して3校になりましたとか、取りあえず、あいいくの丘といちじまこども園の枠組みで統合して2校になりましたという段階で一旦統合をやめる意味がよく分からないというか、別にそのまま統合を進めたらいいんじゃないかなと思っています。今どこに向かって走っているのか分からない感じにもなっていると思うので、もともとの提言に向かったらいいんじゃないかなと思うんですね。もちろん、それは賛否あるのは、どこでもあると思うので、そこがちょっとずつ割合が変わってきているから、今、こういう進み方になっていると思うので、そこをもう一回、ちょっと皆さんの意見をしっかり考えていただいて、もうこの形でいいという話だったら、それでいいと僕も思うので、そういうところをもうちょっと聞いていったほうがいいんじゃないかなと思います。

(川上委員長)

ありがとうございました。以前の経緯にもう一回目を向けて、そこもちゃんと大事な選択肢にしていきたいと思いますという御意見だったと思います。いかがでしょう、幅広に今回はお話が伺えればというふうに思っております。お願いします。

(委員)

すみません、個人的な意見にはなるんですけども、もともとの小学校同士が統合するという話の始まり自体が、やはり人数の変化や減少が原因で2校を1校にしようとかいう話が始まったかと思うんですけど、今、正直、今年からこういう会に初めて参加させてもらって、5校から1校にする流れがあるということ自体、まず今回初めて知りまして、今、いろいろな方の意見を聞いたら、僕個人の意見としては、なぜ1校にする必要があるのかなというのは、非常に思っています。

もともと人数の関係で、統合するという話が、何か今は少し、教育の方針とか、別の方向に向いているのかなというふうに個人的には感じるので、こども園単位で統合するという意見もあるとは思いますが、もし人数的に今のままで問題ないのであれば、僕は3校で行くのがいいのではないかなと思います。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。ほかいかがでしょう。たくさん意見が出ているので、出していただければと思うところですが。やや出尽くした感じですかね、現段階としては。この後、また改めて協議を続けていく形になろうかなと思います。統合検討委員会の段階でも、5校存続をするかしないかで御意見を伺っていて、5校存続はしないという結論だけしか得ていないので、

じゃあ、どこをもって一定の区切りとするかということについては、実は合意を得ていない状態です。

早急にという話もあった二つの組合せ、吉見・鴨庄の話と竹田・前山の話について、今回、一つ、方向性が見えたということで、今後の方向性をということで、今回、改めての御意見を伺う場を設けたというような次第になります。この後、引き続き、御検討いただくことになろうかと思えます。吉見・鴨庄の委員の皆さん、それから、竹田・前山の委員の皆さんには、それぞれの具体的な統合の動きに向けたお話と、やや並行してということになるんですが、この市島地域の小学校教育の在り方についての統合準備委員会ということになりますので、引き続き、全体のところで御関心持っていただいて、御意見いただければというふうに思っているところです。よろしくお願いします。

次第

(川上委員長)

6 自由討議

そうしますと、次第上で予定をしておりました御協議、それから、自由討議と重ねて、今、進めたつもりでございましたが、何か改めて今日のお話を振り返って御意見いただける方いらっしゃいましたら、挙手いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですね。

次第

(川上委員長)

7 その他

では、7のその他に移りたいと思いますが、事務局、お願いします。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

いろいろと御意見ありがとうございました。その他に、今後の進め方の中で、委員長からも少しあったとは思いますが、1校協議について、今、段階的に進めている統合とは別に、全体のことをどう考えていくのかという協議は、今日、結論が出たわけではないので、引き続き御協議いただきたいというふうに事務局としても考えております。

その中で、こうして全体の間でももちろん可能なんですが、部会が並行して開催されている中で、部会のほうでも今日の議論の継続というのも、部会は部会として決めていくことがあるんですが、その合間で、この1校協議についても継続して協議をいただきたいなと思うんですが、その辺、御確認いただければありがたいと思います。

(川上委員長)

今、事務局のほうから御発言ございました。この後、次第でいうと、「5校→1校」統合についてとなっているんですが、今後の在り方についての御議論というのについても、引き続き、それぞれの地域部会でも引き取って続けていただければという御提案でしたが、この点、御承諾いただけるでしょうか。お願いします。

(委員)

私、ちょっとあまり言われている意味がよく分からなくて。何を協議しているのか。全部を1校にするのを目指しているのか、三つがいいのか四つがいいのか、どういうことなのかなって。何を議論しているのか、ちょっと分かりやすく説明してもらわないと、また意味の分からないまま終わって、また話合いをするわけですね。今後、またPTA側の、統合もして、新たな規約づくりとか、そういうのを考えていかないといけないわけです。それも、その後に、また何年後に全部統合するかもしれない、そういう話も、この間初めて聞いて、今日も何か、全く意味が分からないんですけど、ちょっと簡単に教えてほしいです。

(川上委員長)

今、御協議いただいているのは、近い話と遠い話です。遠いと言っていいかどうか分かりませんが、要は、具体的に今日、皆さんに挙手いただいた竹田と前山の話であつたりとか、吉見と鴨庄の話だつたりとかというのは、今、お話にあったような具体的な統合に向けての動きをどうするかという、割と実務の話も含めて出てくるかと思うんですが、そもそもがもともと5校あつたものを、どういう形で落ち着けていこうとか、最終がどこに向かつて、どういう順番で行こうかということについても、議論を、それが決まっているわけではないんですよ。

それについての経緯というのが、今、冒頭、この事務局からも説明があつたところですが、5校を1校にという話については、具体的に動くことができずに、令和2年度の統合検討委員会まで来てしまつて、5校を1校というのに、ある種、こだわった形で議論をこの後進めていくというのは、どうも難しいだろうということですよ。

5校のままで統合を全くしないのか、5校から少しは何か統合をするのかということについて、まず令和2年度に御議論いただいて、何らかの形で統合は進めていくべきでしょうという御了解はいただいた。それで、令和3年度から統合準備委員会というものを進めているんですが、そこでいうと、令和5年4月、令和6年4月という、割と近い話の二つの統合について、一つ、この先の形が見えたというのが今日ですね。

その後、5校をそのままにはしないという話だけで、そもそもがスタートしていますので、二つの統合が一つめどが立ったというところで、これを一つの落ち着いた形とするのか、さらにもう少し進めた形を考えていくのかという点についても、並行して御議論いたしましょうというところで、今、お話をさせていただいている。なので、この統合準備委員会の中で、割とこの1年、2年で答えを出していかなければいけない具体的な動きの部分と、もうちょっと先を見据えた今後の在り方の部分という二つが混在して動くということです。近い話も合意を得つつ、遠い先の話についてもみんなで考えていきましょうという形になっている分、少し、どっちの話をしているのかというようなことになりやすい部分があるかなというふうに思うんですが、これを行ったり来たりしながら、話をしているというところの全体の構成を少し御理解いただけるといいかなというふうに思います。

その上で、一個一個の疑問も出てくる部分について、全体のこういう会合でも結構ですし、地域部会等々を通して、御理解いただければなというふうに思っておりますが、私の把握している範囲での説明としては、こういう形になりますので、引き続き御協力のほうよろしくをお願いします。

いかがでしょうか。今、そのほかというところで、今いただいたみたいなの、少し振り返っての御意見ですね。お願いします。

(委員)

今おっしゃったようなことを私も思っていて、5校が今、3校になることが決まっている。そういう中で、私は前山地域なので、前山小と竹田小が統合するところに非常に力を注がないといけないときなんですよ。それも時期が決まっているから、今、鴨庄小学校と吉見小学校の統合でもいろんな協議が進んでいますので、その後追いみたいな形で、力を入れていかないといけない。だから、保護者会、PTAの方にしても、やはり組織の問題であるとかバスのルートの問題であるとか、アフタースクールの問題であるとか、そこら辺のことで頭がいっぱいだと思うんです。私もそうです。なるべく子供たちにとって良い方向になるように、その辺りのことを決めていかないといけませんからね。ですから、それらのことに力を非常に注いでいかないといけない。

それと、前山地域からすると、廃校のような形になるので、そこら辺のことも、やはり地区内でいろいろ検討もしていけないといけない。だから、今、

3校あるのを2校にするとか1校にするとかいうところの議論の前に、自分たちの足下を早く固めていかないといけない。私はそう思います。だから、1校にするようなことを考えているような時間はない。いつもそんな感じです。前山小学校をどうしていこうかなと、そんな感じで考えています。だから、今、3校になることが決まっているので、それを2校にするのは、まだ5年も6年も先ということですから、その後の1校というふうな形になると思うんです。

ですから、その1校というふうな議論も、それは大切かもしれませんが、ちょっと時期尚早なのかなと、私たちからするとそう思っています。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。これもまた今後の在り方に向けての大事な観点かなというふうに思います。ひとまず、どういう段階になるまでは凍結したいというのも、一つの御意見かなというふうに思いますので、ありがとうございました。

そのほか、今日、全体振り返って、何か御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうかね。

それでは、それぞれの地域部会のほうで、ひとまずは取り上げていただいて、その中で、どの程度の議論にエネルギーが注げるかという話も含めての御議論になろうかなというふうに思うんですが、この後、地域部会のほうでも引き取っての御検討をいただければと思っていますところですよ。

それでは、進行のほうを事務局にお戻ししたいと思います。本日活発な御意見、どうもありがとうございました。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

ありがとうございました。それでは、引き続き、その他のところも含めてだと思んですが、竹田・前山の部会について、今日、全体の会が早く終われば、今後のスケジュール等を確認したいと思って、地域部会について準備をしてもらっていたんですが、ちょっと時間が押していますので、この後、資料のほうだけ配付をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次第

8 次回委員会の日程について

(足立教育部次長兼教育総務課長)

それでは次回委員会の日程につきまして、全体については、地域部会の進行を見ながら、また承認事項等が出てくれば、正副委員長と日程調整の上、次回の委員会を開催したいと思ひますので、今日の時点では、まだ未定というところで御了解いただきたいというふうに思ひます。

次第

9 閉会

(足立教育部次長兼教育総務課長)

それでは、最後、閉会ということで、副委員長様、よろしくお願ひします。

(副委員長)

大変長時間にわたりまして、貴重な御意見、たくさんいただきまして、ありがとうございます。今日、御承認いただきました竹田小学校と前山小学校の統合の場所が竹田小学校に決定したこと、それから、アフタースクールのこと、バスの運行のこと、御承認いただきまして、ありがとうございました。これで、まず一歩は進んでいったと思っています。

先ほどから出ておりました1校統合の問題、私も鴨庄地域ですし、鴨庄のことで頭がいっぱいでございます。今後、各部会で慎重に御検討いただいて、進めていていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。これを持ちまして、本日は終了とします。ありがとうございました。